

## ■高校野球のケーススタディー（第43回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

### ○ 今季規則改正について

今季、公認野球規則は27項目、アマチュア野球内規が2項目、高校野球特別規則では3項目が変更となりました。今回はその中から投手の項目について2回に分けて解説します。

### ○ 公認野球規則におけるセットポジションの投手に関する規則改正（ハイブリッド）について

5.07(a)(2)【原注】の最終段落に次を追加（点線部分）するとともに、【注6】、【注7】が追加されました。

塁に走者がいるときに、投手が投手板に軸足を平行に触れ、なおかつ自由な足を投手板の前方に置いた場合には、この投手はセットポジションで投球するものとみなされる。

ただし、打者が打席に入る前に、投手がwindアップポジションで投球する旨を審判員に伝えた場合には、前述のような投球姿勢であったとしても、windアップポジションとして投球することができる。投手は、打者が打撃中であっても、(i) 攻撃側チームにプレイヤーの交代があったとき、または(ii) 走者の位置が変わったときは、次の投球を行なう前であれば、審判員にwindアップポジションで投球する旨を伝えることができる。

【注6】 windアップポジションとして投球する旨を審判員に伝えた後であっても、攻撃側チームのプレイヤーが交代したり、走者の位置が変われば、セットポジションに戻すことができる。

【注7】 アマチュア野球では、セットポジションに戻すときも、審判員にセットポジションで投球する旨を伝えなければならない。

ハイブリッドとは「異なる複数の要素を組み合わせたもの」とされています。投球姿勢については、windアップポジションもしくはセットポジションの2通りしかなく、この2つは足の置き場所を判断していました。

#### ・ windアップポジション

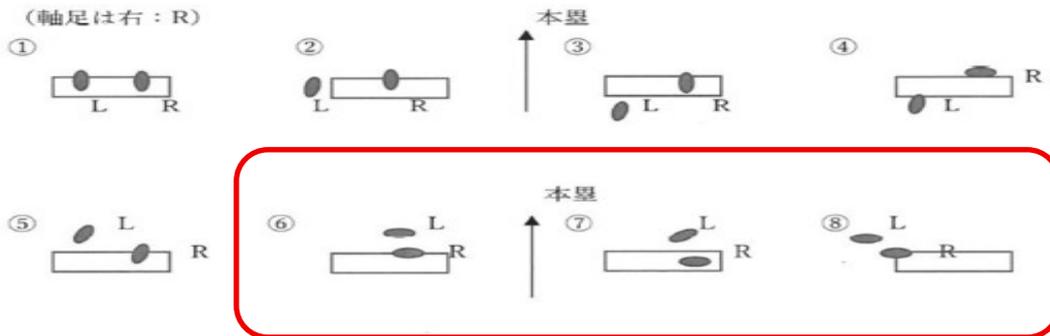
→ 軸足が投手板に触れている 自由な足の置き場所には制限がない

#### ・ セットポジション

→ 軸足が投手板に平行に触れている時 自由な足が投手板よりも完全に前に置いている

今季から導入されるハイブリッドでは、セットポジションの姿勢（図⑥～⑧）からwindアップポジションとして投球することが可能となります。

投球姿勢  
(本文 5.07a1;同 a2 参照)



1. 走者がいないとき

- ①～⑧のいずれもwindアップポジションとして投球することができる。  
(軸足が投手板に触れてさえいれば、自由な足はどこに置いてよい)

2. 走者がいるとき

- (1) ①～⑤はwindアップポジション。  
(2) ⑥～⑧は軸足を投手板に並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置いているのでセットポジション。

本改正は、あくまでもセットポジションの姿勢からwindアップポジションで投球している投手が対象です。したがって、これまでどおりwindアップポジションで投球している投手は、申告する必要はありません。

○ ハイブリッドで投球する際の方法や注意点について解説します。

- ・対象 **走者がいる時にセットポジションの姿勢(図6～8)からwindアップで投球したい投手**  
※通常のwindアップポジション(図1～5)では申告は不要
- ・申告者 当該投手
- ・申告のタイミング 打者が打席に入る前  
攻撃側プレーヤーの交代があった時、走者の位置が変わった時は次の投球前
- ・申告の方法 球審に口頭で伝える「ハイブリッドで投げます」等
- ・申告の確定 球審が他の塁審およびプレーヤー、両チームのベンチに対して投球姿勢が変わる旨のサインを明示すれば投球姿勢への変更が確定
- ・効力 一打者の打撃完了まで 原則途中での変更はできない
- ・変更が可能な時 **攻撃側プレーヤーの交代があった時(代打や代走)、走者の位置が変わった時**  
※申告がなければ、変更なしと判断
- ・変更時の申告の方法 球審に口頭で伝える「セットポジションで投げます」等
- ・留意点 ① 1人の打者に対する効力であるため、打者の打撃が完了すればリセット(次打者にはセットポジションで投球するものと)される  
② 次打者にもハイブリッドで投球する場合には、次打者が打者席に入る前に申告が必要  
③ 逆に、次打者に対してセットポジションで投球する場合には球審への申告は不要
- ・球審によるサインの明示方法 ① セットポジション → ハイブリッド  
『両手を身体の前面で合わせて頭頂部へ振りかぶる動作』で示す  
② ハイブリッド → セットポジション  
『両手の身体の前面で合わせてそのまま保持する姿勢』で示す

○ 下記の事例などでは同一打者に対しても走者の位置が変わった後、次の投球までに申告することで変更が可能です。

・事例①「ハイブリッド → セットポジション → 再度のハイブリッド」を申告した場合。走者の位置が変われば再度のハイブリッドも可能で球審に申告する。同一打者のときには、セットポジションに戻るときも球審に申告する。

(例) 1アウト走者2・3塁 → 3塁牽制アウトで2アウト2塁 → 盗塁で2アウト3塁  
ハイブリッド → セットポジション → ハイブリッド

・事例②打撃中に「セットポジション → ハイブリッド」を申告した場合。

(例) 2アウト走者1・3塁 → 盗塁で走者2・3塁  
セットポジション → ハイブリッド

○ 最後に、ボークとなるケースを示します。

・事例①

投手が「ハイブリッドで投げます」と申告後、球審がジェスチャーにて明示した。打者に対して2球投球した後、制球が定まらないため、セットポジションで投球した。

→打者1人に対して有効なため、セットポジションで投球すればボークとなります。(※もし、申告があったとしても、その申告は認められません。)

・事例②

一死走者2, 3塁。投手が「ハイブリッドで投げます」と申告後、球審がジェスチャーにて明示した。投手が三塁へ牽制し、3塁走者がアウトとなり、二死走者2塁となった。投手は申告せず、同一打者に対してセットポジションから投球した。

→走者の位置が変わった場合でも、同一打者に対しては申告が必要なため、ストレッチを行い静止した場合ボークとなります。

対象となる投手は少ないと思いますが、方法や注意点などよく確認しておきましょう。また、申告を受けた球審のジェスチャーにより選手やベンチに明示するので、そのジェスチャーも見逃すことがないようにしてください。

表題デザイン協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

表題デザイン：中川 早紀さん (74 回生)